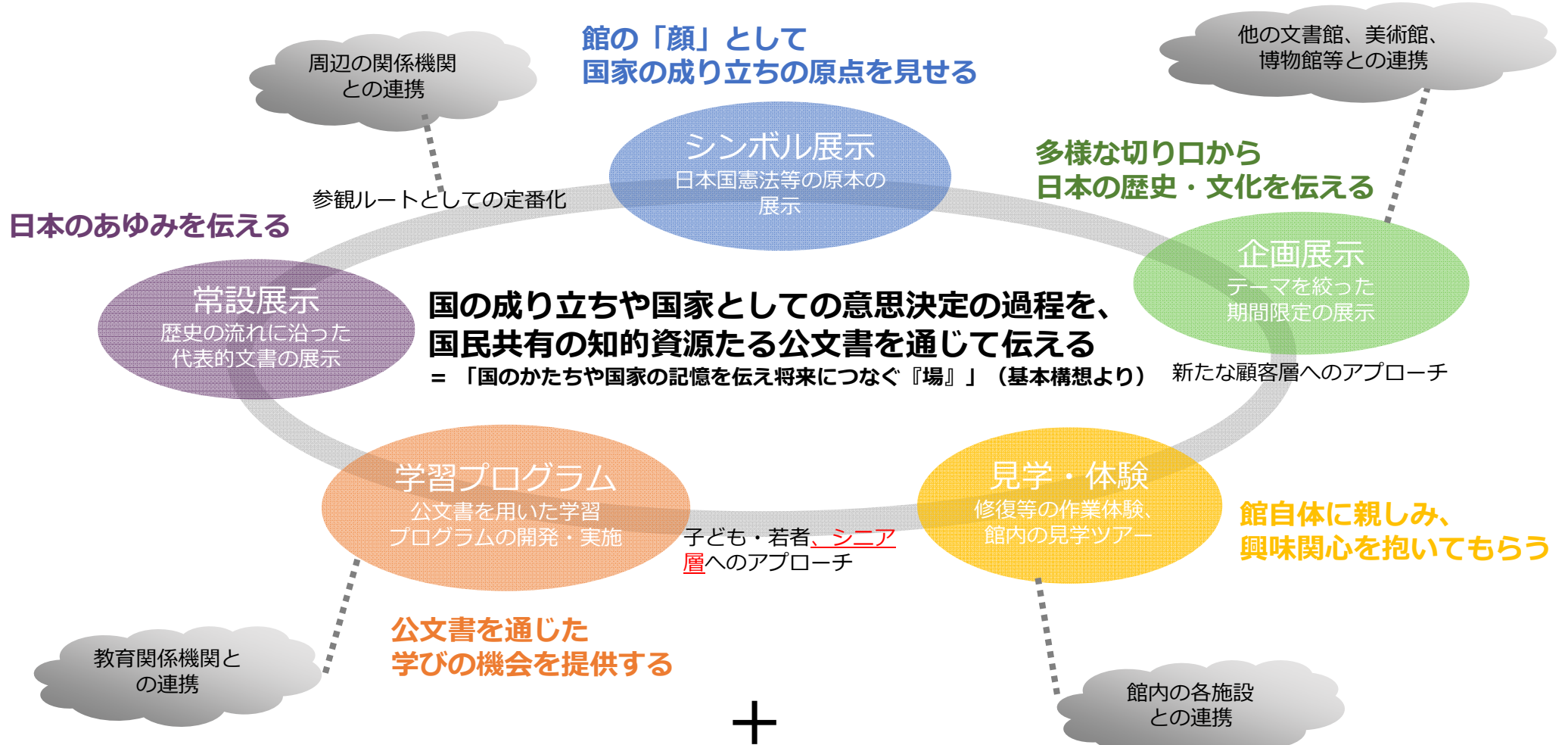


展示・学習、情報交流活動の展開イメージ

(第1回WGにおける議論を踏まえた改訂版)

※p1～p3については、修正箇所を赤字・下線で表示。



積極的かつ戦略的なPR活動、国立公文書館を拠点とした交流の促進

各活動の展開イメージ（仮案）

	シンボル展示	常設展示	企画展示
概要	日本の国家としてのあゆみを伝える (基本的に通年同じテーマによる展示)		多様な切り口から日本の歴史・文化を伝える (特定のテーマに沿って一定期間行う展示)
狙い・ ターゲット 層の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 日本のあゆみを学べる施設としての認知・定着 → 特定の層に絞らず広く万人に開かれた施設を目指す 国会周辺参観ルートとしての定番化 → 国会参観者、<u>修学旅行の学生</u>等の取り込み 		<ul style="list-style-type: none"> リピーターの獲得 → 「友の会」会員などのリピーターの増加 多様な客層へのアプローチ → 新たな客層の取り込み
所要時間	45分程度で一巡できる程度が望ましい		30分～1時間程度で一巡できる程度が望ましい (企画内容に応じて柔軟にスペースの使い方を変えられる ような工夫が必要)
主な 展示資 料・ <u>企画 内容</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国家の体制を象徴する資料 例) <ul style="list-style-type: none"> ● 日本国憲法 【国立公文書館の所蔵資料】	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の成り立ちや近代以降中心の我が国の政治、外交、社会等に関わる主要な事柄に関する資料 ● 国立公文書館・公文書管理について ● 小中学生・生徒の教育に配慮した展示 【国立公文書館の所蔵資料中心としつつ、他の機関からの借用資料も補足的に活用】	<ul style="list-style-type: none"> ● 各テーマに関連する資料 【国立公文書館の所蔵資料のほか、他の機関からの借用資料も積極的に活用】
展示手法	公文書等を中核に据え、映像やグラフィック等も交えた解説等によりその内容を分かりやすく伝える工夫を凝らす。 さらに、 <u>他館からの借用資料も含めた映像資料、実物資料等の展示、<u>バーチャルリアリティ（VR）等のデジタル技術なども活用した空間づくり</u>等により、<u>出来事や時代背景をよりリアルに分かりやすく伝える。</u></u>		
<u>運用面の課題</u>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>展示テーマや内容の企画への外部人材の活用やそのための仕組みづくりについて検討する。</u> ● <u>「国民共有の知的資源」たる公文書等を利用に供するという趣旨に鑑み、常設系の展示（シンボル展示、常設展示）については無料としつつ、企画展示その他の企画については、内容や性質によっては有料とすることも選択肢の1つとする。</u> 		

	学習プログラム	見学・体験
概要	公文書を活用した学習プログラムの開発・実施	館内の見学ツアー、作業体験
狙い	次代を担う子ども達に、文書で記録を残すことの意義、文書を通じて歴史を学ぶ楽しさを伝える	公文書及び国立公文書館への理解・関心を高める
主なターゲット層	小学生、中学生、高校生 小中高の教職員（プログラムの開発への協力も含む） <u>大学生・大学院生</u> <u>シニア層</u>	小学生、中学生、高校生 来館者全般（参観ツアーのオプション）
具体的な内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書を活用した学習・<u>研究</u>の実践ワークショップ <u>【小中高生】（子ども達向け）</u> ・公文書を活用した学習プログラム・教材の開発ワークショップ【教職員】 ・<u>大学・大学院における専門職育成の実践演習的なワークショップ</u> <u>【大学生・大学院生】</u> ・<u>展示内容、古文書の読み方等についてのワークショップ</u> <u>【シニア層、大学生・大学院生】</u> → <u>展示解説のボランティアとしての起用も想定</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・修復室、書庫などのバックヤード見学 ・修復などの作業体験

積極的かつ戦略的なPR活動、国立公文書館を拠点とした交流の促進

【積極的かつ戦略的なPR活動】

- ・国会周辺という立地の利点を活かしつつ、国立公文書館の存在意義を伝えていくための広報を行う。
- ・メディアと連携した世代ごとのアプローチ、情報伝達の流れを意識した多層的なアプローチ、SNSを活用した話題づくり等を戦略的に展開し、より幅広く多くの人々に国立公文書館に興味・関心を抱き、訪れてもらえるよう、働きかけを行う。

【国立公文書館を拠点とした交流の促進等】

- ・レストラン・カフェ、ミュージアムショップの整備などにより、多くの人々が気軽に訪れ、楽しむことができる施設としての魅力を高める。
- ・イベントの実施、学校団体の休憩・食事など多目的に活用できるスペースを整備し、国立公文書館を拠点とした交流の促進、施設利用の利便性の向上につなげる。
- ・展示内容の企画、展示解説等に大学生、研究者、シニア層等の外部の人材を活用し、国立公文書館の活動を支える人材の幅を広げるにより、活動のさらなる充実・活性化を図る。